

ぶうげんびりあ3月 No.1

2019年 3月号 No.237 <http://www2.synapse.ne.jp/ainohamaen>

編集・発行 障害者支援施設 愛の浜園
奄美市名瀬大字知名瀬2504
TEL:54-8011 FAX:54-8012

奄美大島は南国、リゾートというイメージが強いと思われそうですが今年度は特に過ごしやすく、真夏の猛暑により日本各地で観測史上最高気温を観測していた中、夏は気温30度前後そして冬は気温10度を下回することは殆どなく暖冬となりとても生活しやすい環境です。そんな過ごしやすかった今年度も残すところ僅かとなり、同時に、平成という元号も歴史から幕を下ろすこととなります。愛の浜園は昭和に生まれ平成を歩み続けてきましたが、これからも、新しく生まれてくる年号と共に、利用者さんの幸せ、そして、御家族や関係者の御多幸を願いつつ、一歩ずつ歩み続けていきたいと思ひます。(副主任:田畑)

3月行事予定表

1日(金):体重測定 血圧測定
5日(火):ヘルスタイム
11日(月):工賃支給日
15日(金):避難訓練
16日(土):男性理髪
19日(火):ジャンベ
20日(水):健康相談



三賞受賞者

(親切賞)

- ・満林 アツ子さん...同居室のお友達の入浴の準備のお手伝いなどをしてくれました。
- ・龍田 光保乃さん...お友達の口元を綺麗に拭いてあげました。
- ・徳 朋裕さん...お友達を気遣い、物を運ぶのを手伝ってくれました。

(努力賞)

- ・田畑 栄さん...パズルに集中して取り組む事が出来ています。
- ・神田 和秋さん...水筒で水分摂取がしっかり出来ています。
- ・政岡 りつ子さん...花紙丸めを頑張りました。
- ・境 秀行さん...食事時間の移動が落ち着いて出来るようになりました。

タンカン狩り



収穫の終わったブロッコリー苗を片づけていることを、町内の方に話すと、「ぜひ、ヤギのえさに欲しい」とのことでしたので、近くの畑まで運び、親子のヤギにえさとして与えました。すると「えさのお礼に畑のタンカンを持って帰ってもいいよ。」との優しいお言葉をいただき、急いで園まで戻り、雨が降り出さぬうちに利用者総動員でタンカン狩りとなりました。初めての方は、鉢の入れ方など支援員に指導されながら、また、経験のある方は、昔のことを思い出しながら...。時に、やぎの大きな鳴き声に驚きながらもではありましたが、それぞれに楽しい時間を過ごせたと思います。あつと言う間に、コンテナ一つ山盛りに収穫することが出来ました。持ち帰ったタンカンは、島の季節を感じながら、みんなでおいしくいただきました。(記事:屋久)



お誕生日 おめでとうございます



満林 アツ子さん 栄 徹さん 岡山 いづみさん

亥年 合同年の祝い

2月19日(火)多目的ホールで、施設とグループホームの利用者さん5名、



職員5名の計10名の亥年生まれの方々の年の祝いを行いました。今年はグループホーム利用者さんが、余暇時間等に作った猪の貼り絵や各テーブルには折り紙で作った猪や綺麗な花を飾りました。式が始まると、園長から各利用者さんのこれまでの生い立ち等の紹介

をはじめ、利用者さんによる祝い唄や、祝舞でお祝いを盛り上げ、愛の浜園らしいほのぼのとした内容になりました。一人一人にお祝いのプレゼントを渡す時には、仲の良い利用者さんが、一言添えて渡し、とても和やかなムードで会は進み、最後に亥年の方々に、お神酒を頂き、全員で今年の健康を祈願して会を終わりました。亥年は12年後にお祝いがまたありますが、次のお祝いも皆さん変わらず元気にお祝いできるよう、健康第一に日々を楽しみましょうね。(記事:名島)



大節分祭参加

2月3日(土)行われた、奄美市役所主催の大節分祭が大浜海浜公園でありまし



たが、グループホーム15名、施設4名、支援員2名、合計21名と参加希望者が多かったため、午前午後に分かれて参加しました。また当日は、休日である2名の職員も遊びに来てくれました。今回初めて参加する行事であり、皆ワクワクして、会場である大浜海浜公園へ向かいました。イベントでは、リアリティーがある、赤鬼と青鬼が登場すると、いよいよ豆まきがスタート。その鬼を見て、怖がり支援員にしがみついたり利用者さんや、怖がる様子もなく、鬼に「こんにちば」と挨拶する利用者さん、必死に豆をまく利用者さん等、みんなそれぞれのリアクションを見ることが出来ました。そして鬼を退治した後は皆でコーヒー休憩。先ほどまで怖がっていた利用者さんも、安心したのか笑顔でコーヒーを頂いていました。初めての参加でしたが、皆笑顔で楽しむ事が出来たイベントでした。これからも、季節ごとにみんなが笑顔になれるイベントにたくさん参加出来たらいいなと思いました。(記事:河村)



奄美市まなび・福祉フェスタ

2月24日(日) 奄美文化センターと一万人広場にて、「まなび・福祉フェスタ」が開催されました。8時45分にオープニングセレモニーが始まり、ホール内では



文化功労表彰を始め、島口による小・中学生の夢の発表、各事業所による発表、全体合唱、午後からは「はなちゃんのみそ汁」の上映、教育に関する記念講演など盛りだくさん。私たち愛の浜園は、一万人広場にて陶芸、手芸品、野菜の展示即売を行いました。また、広場では30近い事業所や団体が、販売や炊き出し、餅つきやシイタケのコマ打ち体験などを行い、当日は天気も良く沢山の人が賑わいました。利用者さん達も外出を兼ねて数名参加し、買い物をしたり体験に参加したり、販売の売り子もしてくれ、とても楽しんでいる様子でした。他事業所の作品や取り組みを見ていい刺激を貰い、愛の浜園も陶芸や手芸がしっかりブランド化できるように、取り組みを強化したいと思います。また来年も素晴らしいフェスタになると思ひますので、皆さんも機会があればぜひご参加ください。(記事:恵)



先輩に感謝！！

先月の「ぶうげんびりあ」でも紹介した池田 ヨシエさんが2月5日に90歳を迎えられました。私が入職した9年前は、麦わら帽子を被って草取りをしたり、毎朝、朝食までの時間に居室や廊下の雑巾がけをしたり、夜勤の時には消灯後のみんなが寝静まった頃に差し入れのお菓子を持って来てくれた事を今懐かしく思い出します。入院する度にこのまま寝たきりになるのでは...と心配する事もありましたが、園に戻ると少しずつ元気を取り戻し、入院する前の生活に近い状態まで回復するヨシエさんに「ヨシエさんって凄いなあ。」と毎回感心させられると同時に、私達に元気な力を分けてくれている感じがして感謝の気持ちでいっぱいになります。歳を重ね今では多く支援が必要になりましたが、90歳の誕生日と一緒に迎える事ができてとても嬉しく思ひます。改めまして、池田 ヨシエさん、90歳おめでとうございます。(記事:大田)



家族として思うこと～平成30年度 家族並びに施設職員研修会に参加して～

鹿児島県知的障害福祉協会主催による上記の研修会へH31年1月19、20日にホテル京セラにて参加しました。保護者は私と幸 れい子さん、職員は市田さんと三人で出かけました。会長の水流 純大(つる すみひろ)さんの開会のあいさつは宮下 和(みやした なごみ)さんの作文の紹介にほとんどを費やす、私達の心を打つ素晴らしい内容でした。中1の宮下 和さんは妹の光さんがダウン症である事や、やまゆり園の事件を取りあげ、光さんにも喜怒哀楽があり、豊かな心があると紹介し、家族にとってかけがえのない存在であると話されています。今、私が娘の友美に対して想う事、感ずる事を和さんが作文に書かれているような気持ちがしてなりません。和さんは、地元で有名な歌手である、エラブチ剛(つよし)さんの長女でお母さんの転勤で私達の地域で五年間過ごした家族でした。あの小さかった和さんがこんなに立派な作文を書かれる中学生になられたのかと感慨深い想いでした。

知的障害サッカー日本代表監督の西 眞一(にし しんいち)氏の講演も興味深く聞きました。共に歩み、共に生きる事がサッカーの魅力と述べておられました。障がい別にたくさんのサッカー区分があるのにも驚きでした。そして、私が一番心に残る部分はグループディスカッションでした。娘、友美のように多くの問題を抱えた重度の子を持つ保護者との話し合いでしたが初めて会う方々とは思えず、心が通い合うのを感じました。悲しみや悩みを幾千万も乗り越え、今日がある事をお互いにすぐに分かち合いました。この研修会に参加して最も心に残る部分でした。形式だけの研修会でないのはすぐに感じ、毎年でも参加したいと思いました。

二日目、「家族として思うこと」と題してお二人のご家族の発表がありました。友美をどこの施設に預けたら良いのかと思い悩み、鹿児島まで探しに出かけた時、友美の元担任の先生と共に吉田愛青園を訪問した事を懐かしく思い出し、家族会会長さんの内田 信義(うちだ のぶよし)さんが、初めてお会いする方とは思えず、経営理念の高い吉田愛青園を『こんな施設が奄美にもあったらなあ』と感じた15年前を思い出しました。職員からのメッセージとして花の木ファーム栄養士 池野 沙也加(いけの さやか)さんの発表、MBCタレント野口 たくお氏の「鹿児島こげなこっがあいもした！パート2」という笑い転げる講演で幕を閉じました。

二日間を通して思った事、『障がいを持つ子供との日々はあきらめてはいけない。』親は休んでは良いけれど、あきらめてはいけないと思います。ここ数年、友美の笑顔が増えた事、豊かな心を取り戻しつつある事、友美の笑顔が見られる事で親としてどんなに幸せな気持ちになれるかを感じています。折りしも園庭のガジュマルの木の下で友美の素晴らしい笑顔が出て、その姿を写した写真を手帳にはさんでいたのを研修会のグループディスカッションの際、皆さんにお見せしました。『この笑顔で親は幸せな気持ちになれるんですね…』と。

鹿児島から帰った翌日、友美の面会に出かけました際、職員に写真の話しをお伝えしたら大きなサイズに引き伸ばして下さいました。私の宝物が一つ増えました。

忙しい一泊二日でしたが、こんな貴重な体験は保護者、家族は順番・交代で是非参加しましょう。毎年あるとの事ですから、希望される方は申し出られたら良いと思います。蛇足ですが、懇親会でおいしい料理、おいしい酒にもありつけました。(記事:家族会 碩 真澄様)

2月の愛の浜園



大節分祭



合同年の祝



池田ヨシエさん 祝 90歳!! おめでと 日常の1コマ